

早稲田大学 法学部 古典 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	90分（現代文2問、古漢融合1問）
出典	古文：本居宣長『玉勝間』 漢文：『蒙求』

〔大問別講評〕

大問番号	設問番号	コメント	難易度
一	問一ノ一	〈引用部の指摘〉 『蒙求』からの引用部分を指摘させる設問。「からぶみよむをきけば、『かの国の……思ひあへり』とぞ。」とつながり、ほかに紛らわしい部分はない。	平易
	問一ノ二	〈主語の指摘〉 同じ動詞が複数ある場合（ここでは「思ふ」）、主語が問われることがよくある。こういう設問は傍線部の前後をしっかりと押さえなければならぬのだが、この問題（特にア）は易しかった。	平易
	問一ノ三	〈文法問題〉 助動詞「む」の意味・用法を問う問題。設問の形式は、昨年度の助動詞「さす」と同じだが、本年の問題はセンター試験でも同内容の問題が出たように、きわめて基本的な問題。	平易
	問一ノ四	〈語の意味〉 重要古語「ゆくりなし」の意味を問う設問。紛らわしい選択肢もなく易しい。	平易
	問一ノ五	〈内容把握問題〉 筆者の考えに合致するものを選ぶのだから、『蒙求』からの引用部分を見る必要もなく、該当箇所を探すのも手間がかからなかったのではないか。ラは「もしまことに…」、ウは「暑きころならずとて…」の部分を読めば簡単に選べる。	平易
	問一ノ六	〈漢文〉 (Ⅰ) 丙吉自身の言葉「民闘相殺傷…」を押さえる。 (Ⅱ) 再読文字「当」と「於」に注意する。書き下し文が与えられているということは、少々複雑な返り点になるのは当然のこと。 (Ⅲ) 古文の該当する箇所を押さえ、消去法で答えを選べばよい。	標準 標準 やや難

〔総合コメント〕

難易度	<p>古文：重要古語、文法、主語、内容把握など、バランスのとれた設問構成ではあるが、本文は短く例年ある紛らわしい選択肢もなく、易しかった。古文ではほとんど差がつかなかったのではないかと。法学部でこのレベルの問題が来年度以降も続くとは思われない。</p> <p>漢文：昨年と同様、古文に関連のある漢文が出題された。漢文は、(Ⅲ)で語彙力を求めるなど、標準レベルの出題であった。</p>
出典	<p>古文：『玉勝間』は受験生なら何度も読んだことのあるはずの頻出作品だが、この部分の出題歴はあまりない。</p> <p>漢文：『蒙求』も頻出作品。</p>
分量	<p>古文：約 660 字と、昨年より大幅に約 300 字減少。</p> <p>漢文：約 200 字。昨年より約 60 字増。</p>
形式	<p>漢文の返り点の問題のみ記述。他はすべて客観式。</p>